



創造と挑戦

先進エレクトロニクスで未来を創造する
ソリューションデザインカンパニー

2024年3月期第2四半期 決算説明会資料

萩原電気ホールディングス株式会社

(東証プライム・名証プレミア 7467)

2023年12月4日

2024年3月期 第2四半期 決算概要

第2四半期は3期連続で増収増益となり、過去最高を更新

- 売上高は、前年同期比25.0%増の1,080億円で過去最高。
自動車生産台数の回復や車種展開等による需要増加に加え、顧客のIT投資や設備投資等を取り込み、売上が増加した。
- 営業利益は、販管費の増加を上回る売上総利益の増加により、前年同期比71.8%増の45億円、経常利益は、前年同期比58.9%増の46億円となり、どちらも過去最高となった。
- 前年同期にM&Aに伴う負ののれん発生益6.7億円を特別利益に計上したことの反動減があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比16.5%増の30億円となり、過去最高となった。

2024年3月期 業績予想

期初予想から上方修正し、3期連続の過去最高更新を予想

- 第2四半期までの実績および昨今の業績動向を踏まえ、期初予想に対し上方修正を行い、3期連続で過去最高を更新する見通しとなった。

2024年3月期第2四半期決算概要

2024年3月期業績予想

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(現状分析)

トピックス

2024年3月期第2四半期業績

■ 売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益のすべてで3期連続で増収増益となり、第2四半期決算として過去最高を更新した。

(単位:百万円)

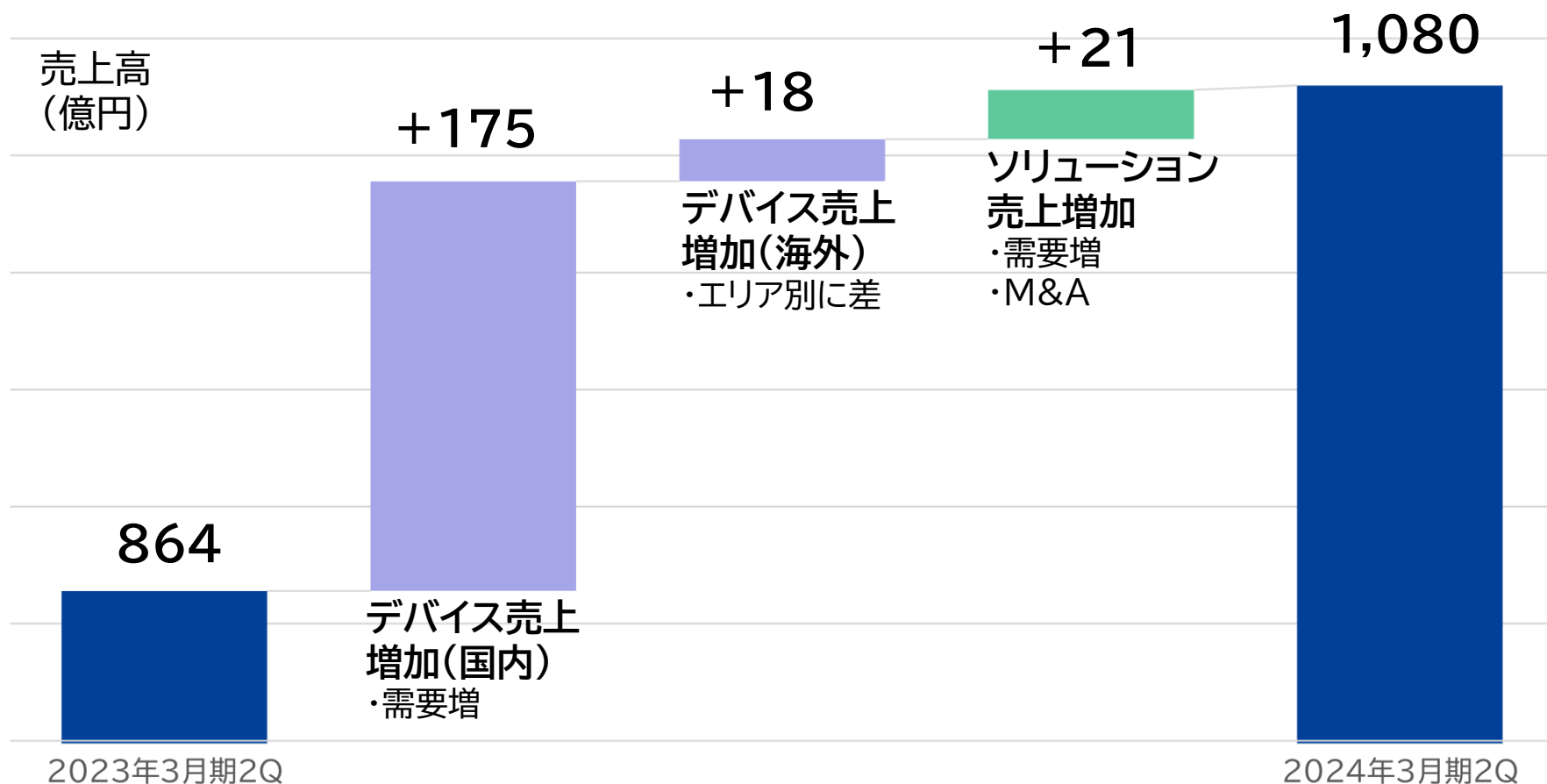
	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	86,412	100%	108,013	100%	+21,601	+25.0%
売上総利益	8,087	9.4%	10,452	9.7%	+2,365	+29.2%
販管費	5,416	6.3%	5,863	5.4%	+447	+8.3%
営業利益	2,671	3.1%	4,589	4.2%	+1,917	+71.8%
経常利益	2,909	3.4%	4,623	4.3%	+1,713	+58.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,606 ^{*1}	3.0%	3,036	2.8%	+429	+16.5%
1株当たり四半期純利益 (円) ^{*2}	294.37	—	326.01	—	+31.64	—

*1 前期2Q時点ではM&Aに伴う負ののれん発生益等について暫定的な会計処理を行っていましたが、前期末に確定したため、本資料では、負ののれん発生益を確定値670百万円に置きなおして各数値を記載しております。

*2 新株予約権の権利行使により前年同期と比較し発行済株式数が増加しております。期中平均株式数は、2023年3月期2Qは8,854,055株、2024年3月期2Qは9,313,675株となります。

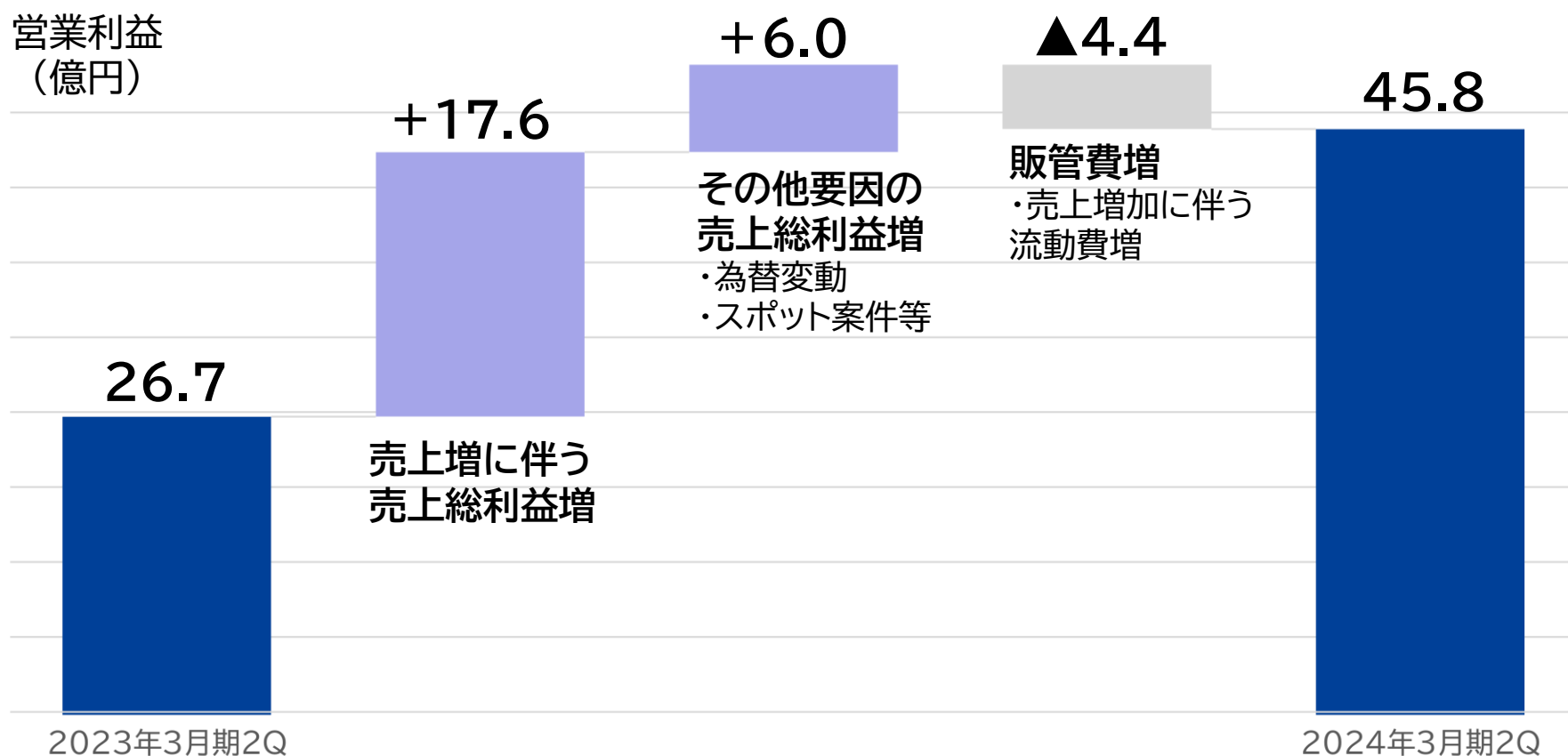
売上高の増加要因

- 前年同期比較で216億円(+25.0%)増加した。
- 自動車生産台数の回復や採用品の車種展開等により国内を中心にデバイス事業の売上が好調だったことに加え、顧客のIT投資や設備投資需要を取り込んだソリューション事業の売上も好調であった。



営業利益の増減要因

- 前年同期比較で19億円(+71.8%)増加した。
- 売上増加や円安等により売上総利益が大幅に増加したことに加えて、販管費は増加したものの上昇率を抑えたことで、営業利益率は1.1ポイント向上した。

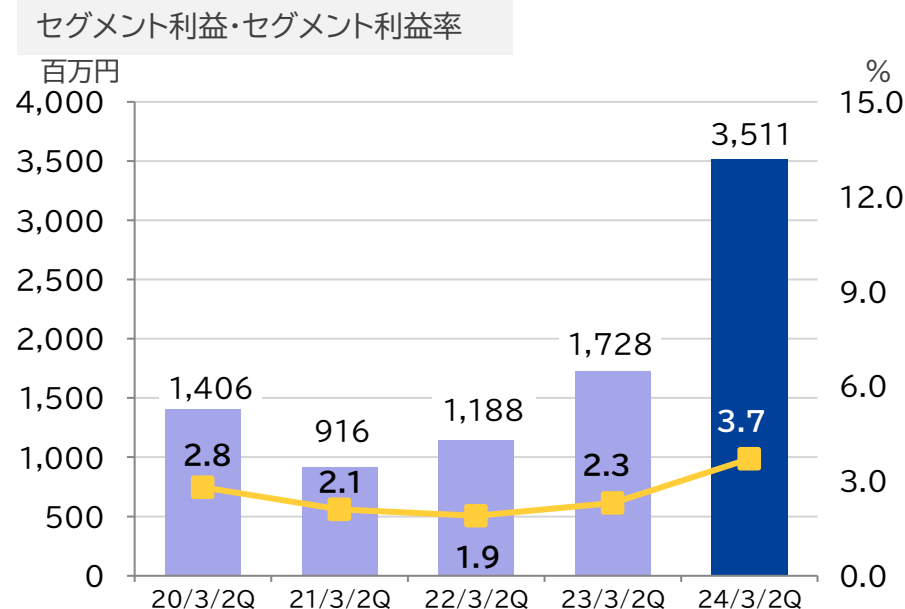
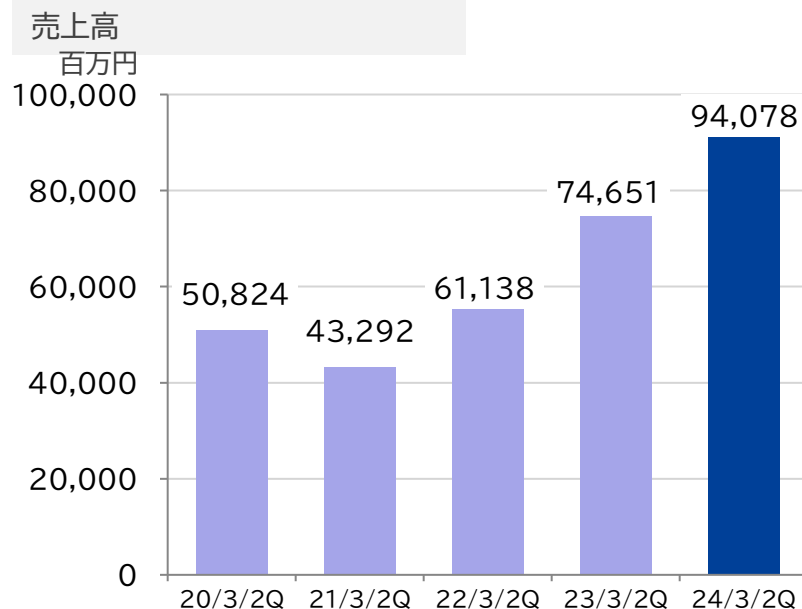


デバイス事業 業績概要

- 自動車生産台数の回復や採用品の車種展開等で半導体・電子部品の需要が増加したこと、円安効果もあり売上が増加した。
- 販管費の上昇が抑えられたことで、利益率が1.4ポイント向上した。

(単位:百万円)

	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q			
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比	
売上高	74,651	100%	94,078	100%	+19,426	+26.0%
セグメント利益	1,728	2.3%	3,511	3.7%	+1,782	+103.1%

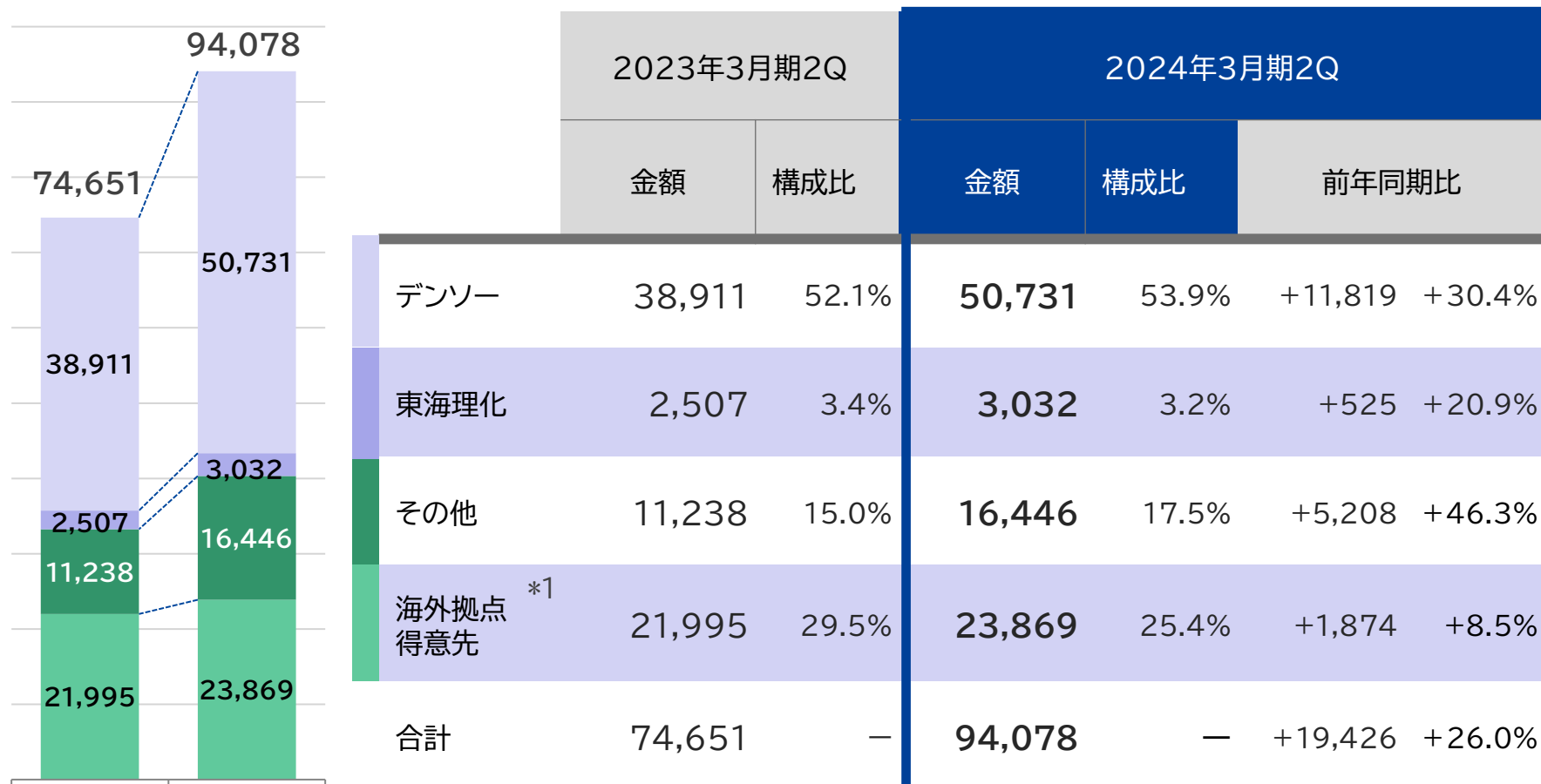


デバイス事業 得意先別売上高前期比較

■ 半導体不足の緩和や自動車の電動化領域の伸展により顧客生産が活発化したことと併せ、新規採用や車種展開があり、主要顧客の国内向け売上を中心に売上が好調だった。

(単位:百万円)

(単位:百万円)



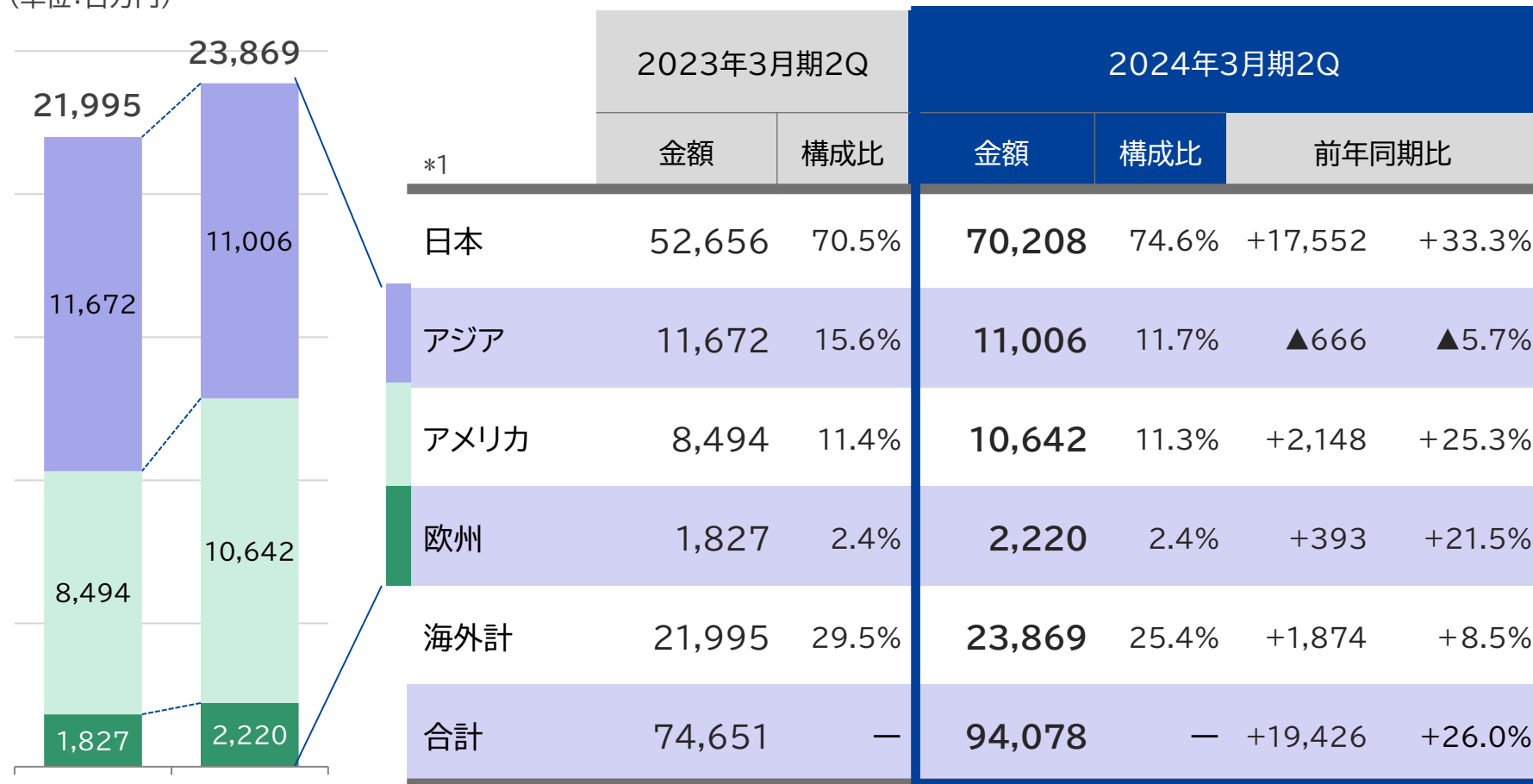
*1 海外拠点得意先には、デンソーを含む主要顧客の海外事業所向けの売上が含まれております。

デバイス事業 エリア別売上高前期比較

■ 自動車生産台数の回復等により、国内を中心に売上を大きく伸ばした。海外は地域別にまだらであった。

(単位:百万円)

(単位:百万円)



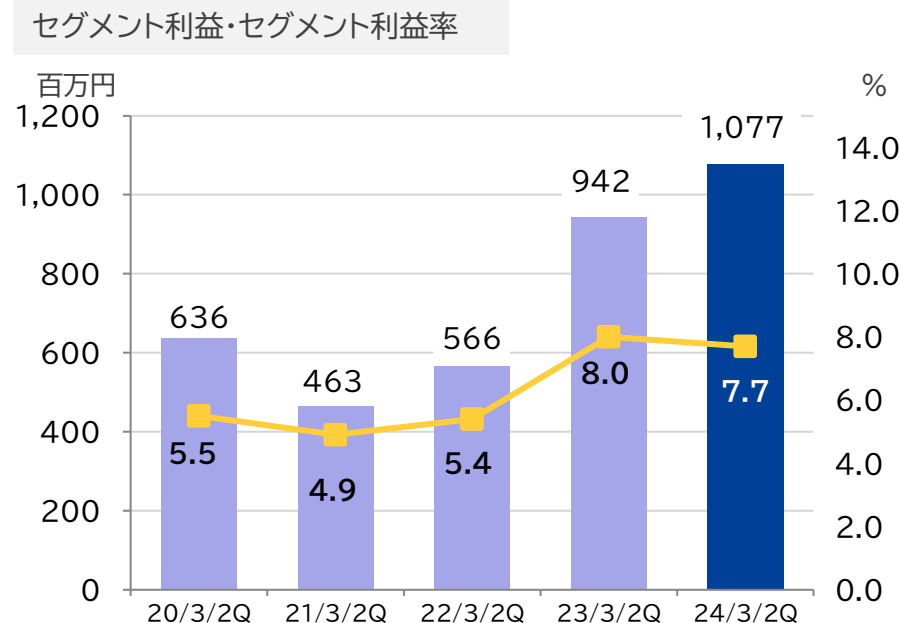
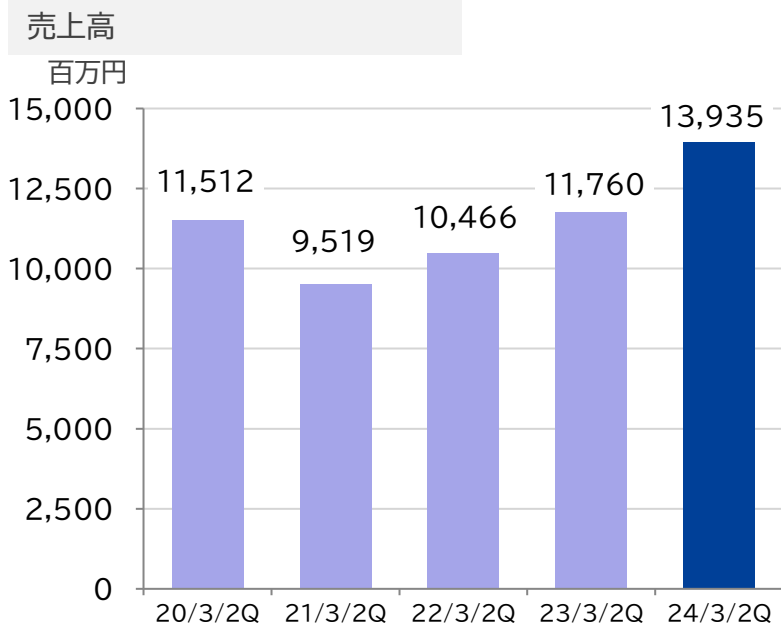
*1 地域名は当社グループ拠点の所在地域(グループ内取引は除く)です。また、当社グループのシンガポール、中国、アメリカ拠点の決算期は12月となるため、2024年3月期2Qに織り込まれる業績は2023年1月～2023年6月の期間のものとなります。

ソリューション事業 業績概要

- 自動化・効率化を目的としたIT投資需要を取り込み売上が増加した。
- 事業別売上構成の変化により、セグメント利益率は0.3ポイント低下した。

(単位:百万円)

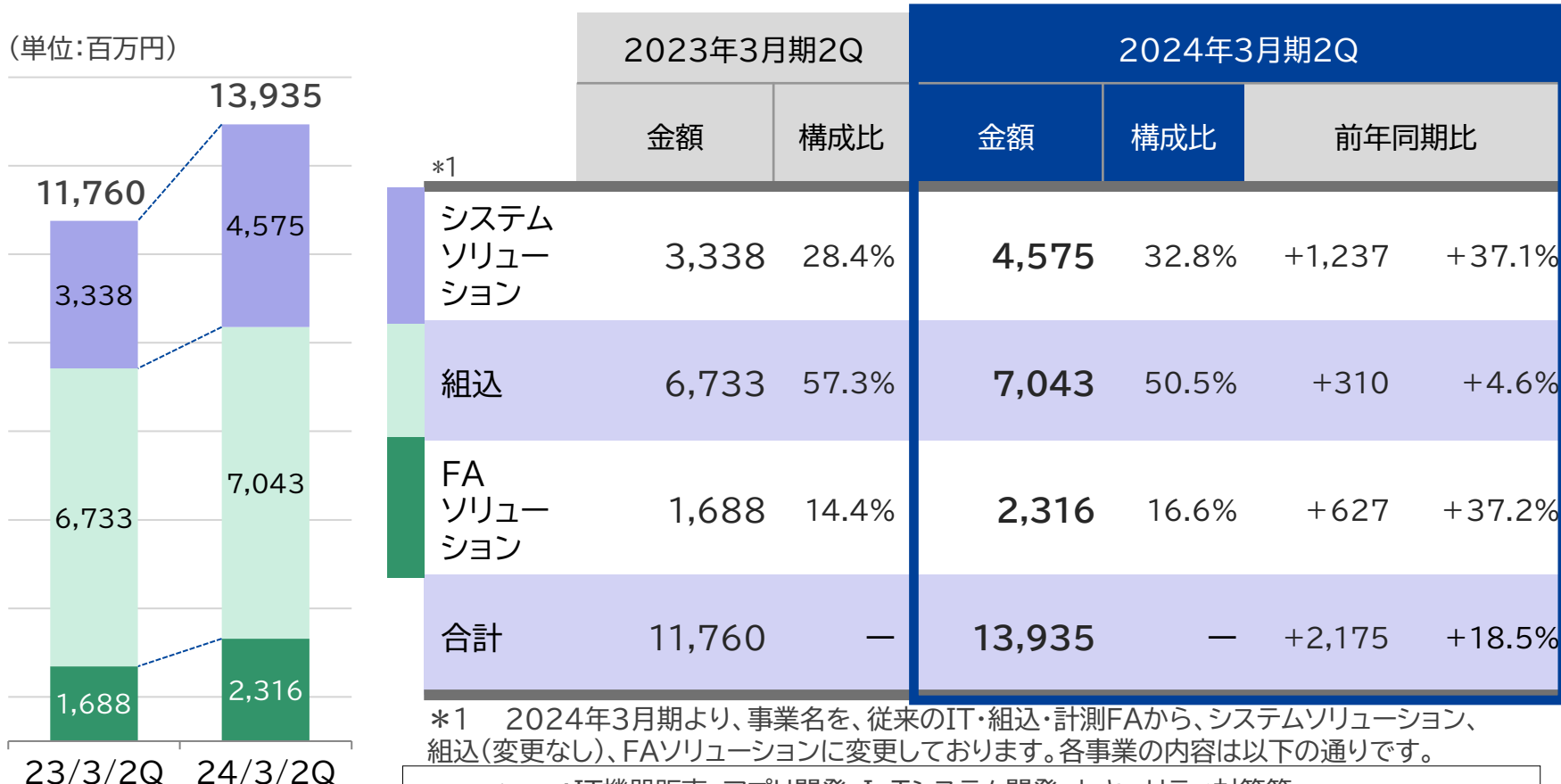
	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q		
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比
売上高	11,760	100%	13,935	100%	+2,175 +18.5%
セグメント利益	942	8.0%	1,077	7.7%	+135 +14.3%



ソリューション事業 事業別売上高前期比較

- 一時的に設備投資を抑制する動きがみられたものの、自動化・効率化を目的としたIT投資などの需要を取り込んだ。
- FAソリューションの売上増は2022年9月に子会社化した萩原エンジニアリングが寄与した。

(単位:百万円)

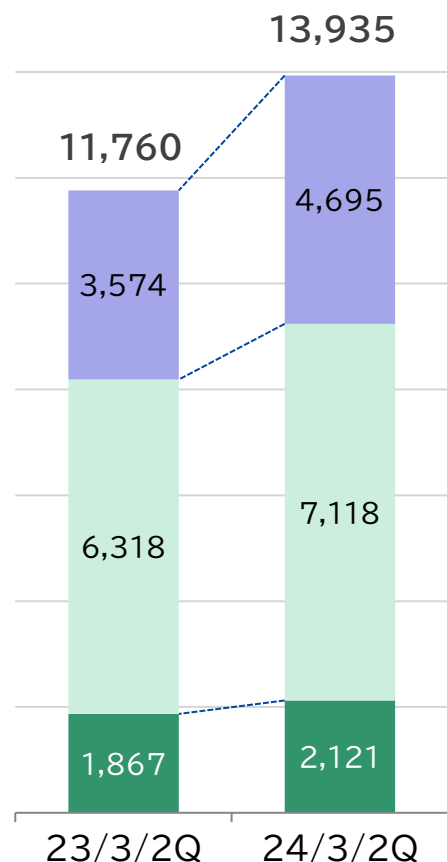


システム	:IT機器販売、アプリ開発、IoTシステム開発、セキュリティ対策等
組込	:産業用コンピュータ開発・製造、機械装置向け組込産業用コンピュータ販売等
FA	:計測機器・検査装置・FA機器販売、各種自動化・省力化製造装置の開発・製造・販売等

ソリューション事業 業種別売上高前期比較

- 自動車関連企業を中心とした積極的な設備投資の需要を取り込んだ。自動化・効率化を目的としたIT投資は全業種で高い需要があった。

(単位:百万円)



(単位:百万円)

	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q			
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比	
自動車	3,574	30.4%	4,695	33.7%	+1,120	+31.4%
FA・産業機器	6,318	53.7%	7,118	51.1%	+800	+12.7%
その他	1,867	15.9%	2,121	15.2%	+253	+13.6%
合計	11,760	—	13,935	—	+2,175	+18.5%

2024年3月期第2四半期業績

- 営業外収益に為替差益1.2億円計上。また、前年同期にM&Aに伴う負ののれん発生益6.7億円^{*1}を特別利益に計上したことの反動減があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益は過去最高。
- 1株当たり中間配当金は、期初予想より35円増配し95円。

(単位:百万円)

	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	86,412	100%	108,013	100%	+21,601	+25.0%
営業利益	2,671	3.1%	4,589	4.2%	+1,917	+71.8%
経常利益	2,909	3.4%	4,623	4.3%	+1,713	+58.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,606 ^{*1}	3.0%	3,036	2.8%	+429	+16.5%
1株当たり中間配当金 (円)	60	—	95	—	+35	—

*1 前期2Q時点ではM&Aに伴う負ののれん発生益等について暫定的な会計処理を行っていましたが、前期末に確定したため、本資料では、負ののれん発生益を確定値670百万円に置きなおして各数値を記載しております。

2024年3月期第2四半期決算概要

2024年3月期業績予想

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(現状分析)

トピックス

2024年3月期業績予想

- 第2四半期までの実績および昨今の業績動向を踏まえ、期初予想に対し上方修正を行い、3期連続で過去最高を更新する見通し。

(単位:百万円)

	2023年 3月期	2024年 3月期				
	実績(A)	期初予想 (B) (5月15日)	修正予想 (C) (11月10日)	増減額 (C-B)	対前期 増減額 (C-A)	対前期 増減率 (C-A)/A
売上高	186,001	213,000	227,500	+14,500	+41,498	+22.3%
営業利益	6,725	6,300	8,350	+2,050	+1,624	+24.2%
経常利益	6,417	6,000	8,200	+2,200	+1,782	+27.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,912	3,900	5,300	+1,400	+387	+7.9%
1株当たり当期純利益 ^{*1} (円)	554.71	437.02	549.93	+112.91	▲4.78	—

*1 新株予約権の権利行使により前年同期と比較し発行済株式数が増加しており、1株当たり当期純利益は、それぞれ発表時点において発行済株式数の増加を考慮して算出いたしております。上記の新株予約権の権利行使は、2023年10月6日にすべて完了しており、本資料公表時点の当社の発行済株式総数は、10,118,000株となります。

中期経営計画(2022年3月期～2024年3月期) KPIの進捗

■ 最終年度の経営目標は当初目標を大幅に上回る目標値に更新した。



(単位:百万円)

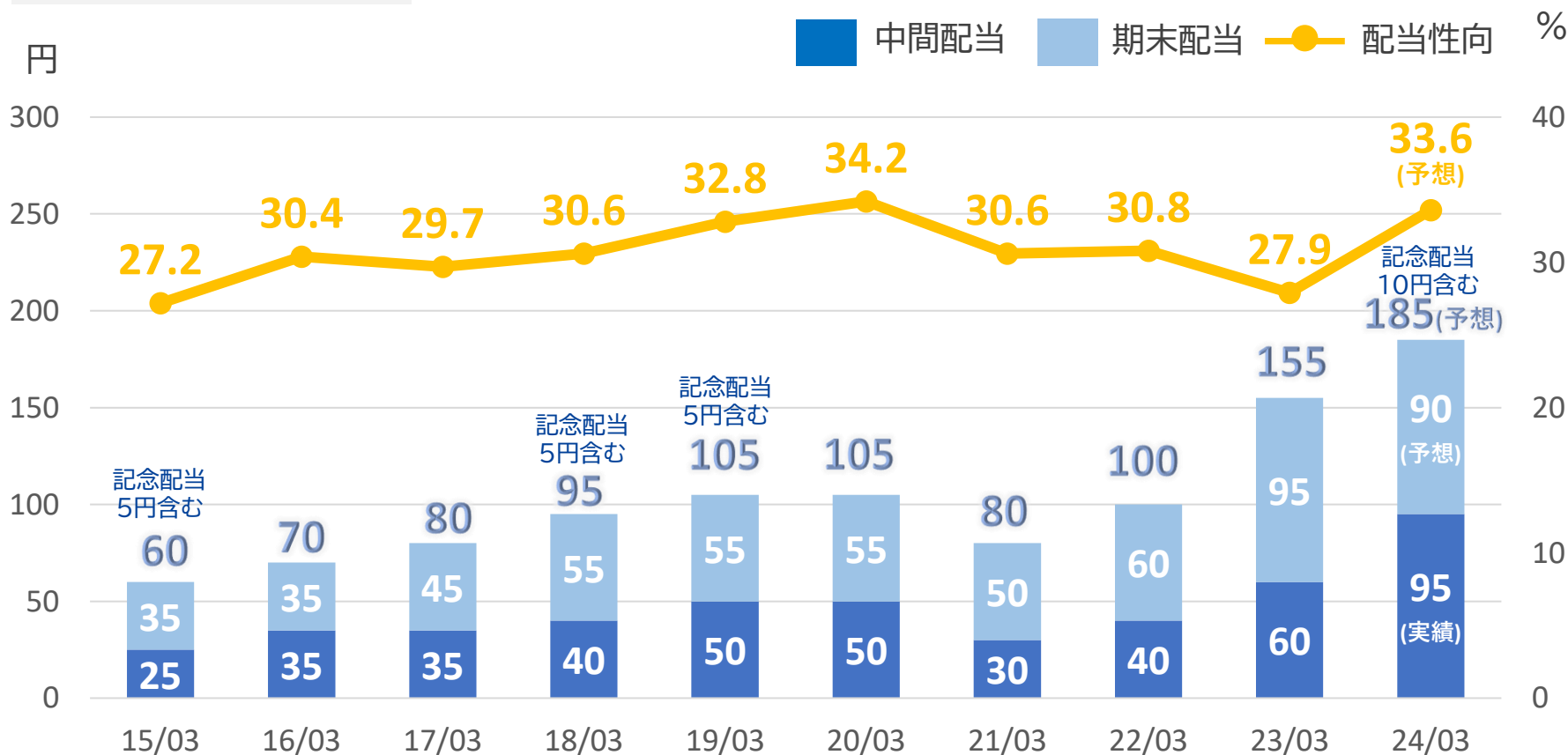
	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	当初の最終年度 2024年3月期 目標値	最終年度 2024年3月期 目標値(11/10)
売上高	127,830	158,427	186,001	170,000	227,500
2021年 3月期比	-	+23.9%	+45.5%	+33.0%	+78.0%
営業利益	3,468	4,356	6,725	5,000	8,350
2021年 3月期比	-	+25.6%	+93.9%	+44.1%	+140.8%
ROE	6.8%	8.0%	12.5%	8.0%	10.0%以上



株主還元

- 基本方針は配当性向30%を目途とした安定配当。
- 業績好調により、期初予想に対して40円増配し年間配当185円の予定。

配当金および配当性向の推移



2024年3月期第2四半期決算概要

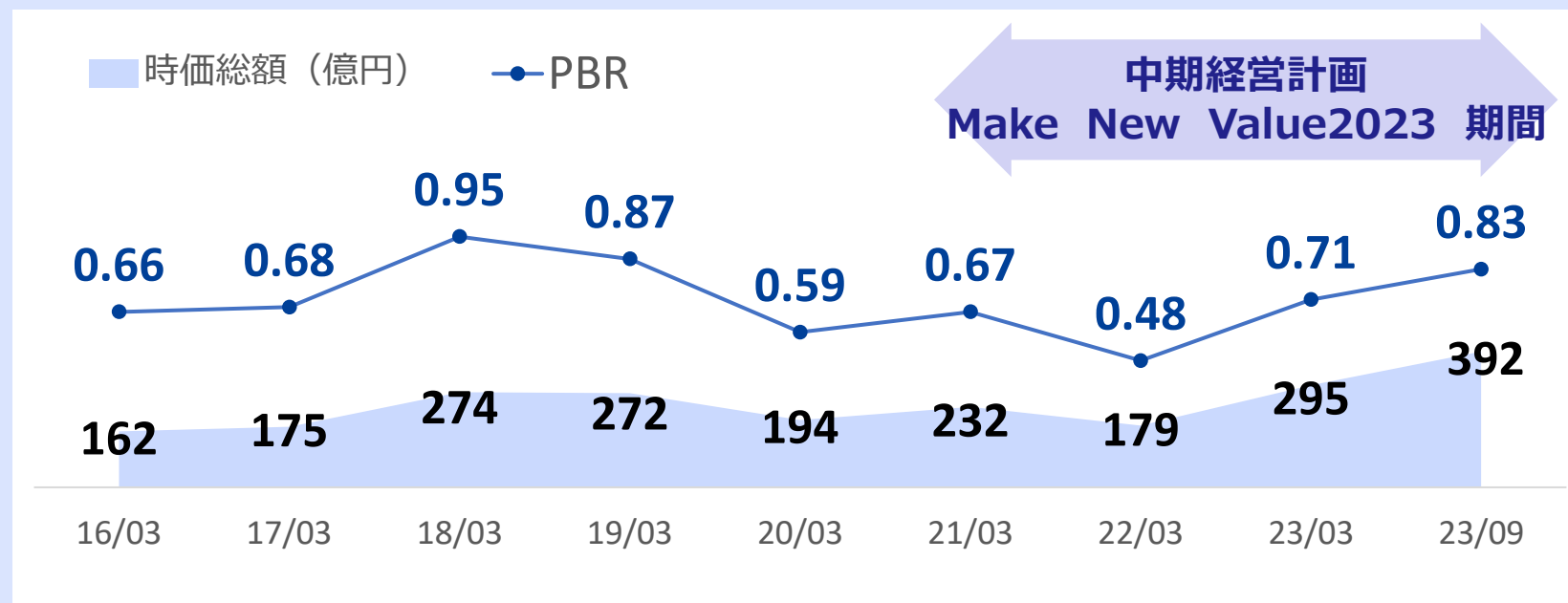
2024年3月期業績予想

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
について(現状分析)

トピックス

- 中期経営計画に基づいた経営戦略の実行による事業成長や企業価値向上への取り組みにより、PBRおよび時価総額は上昇傾向にある。

直近のPBR・時価総額



* PBRは期末の株価終値とBPSより算出

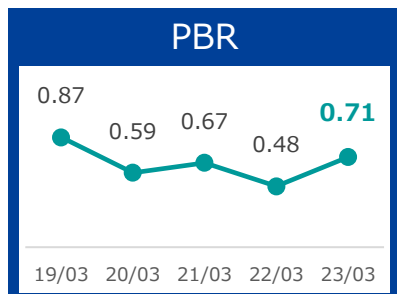
【現状分析】 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

- 直近のROEは株主資本コスト^{*1}を上回るもののPBRは1倍を下回る。
- 収益力の向上に加え、株式市場での評価向上への取り組み強化が必要。

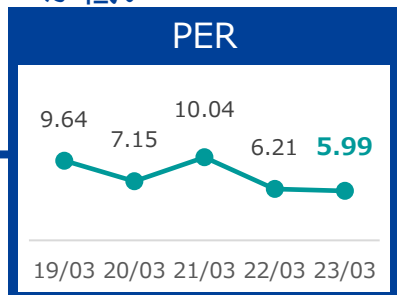
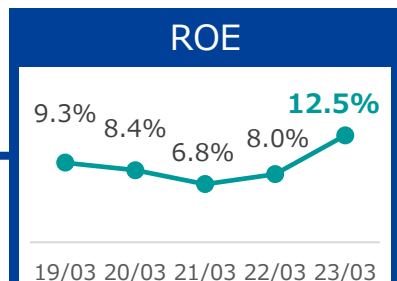
現状分析

課題認識

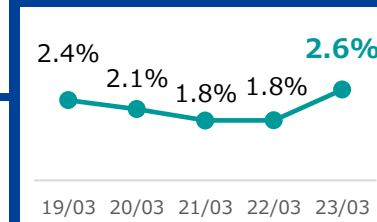
✓ PBRは1倍割れ



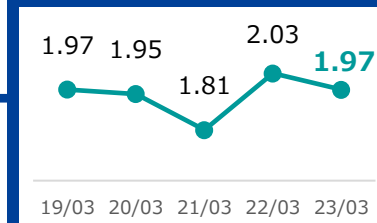
✓ 市場からの成長期待が低い



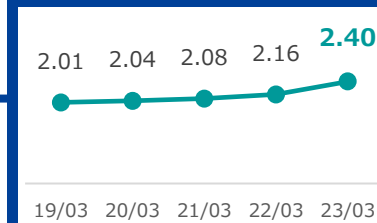
当期純利益率



総資産回転率



財務レバレッジ



- ✓ 適切なリスクテイクを伴う事業ポートフォリオマネジメント、体制整備、収益力強化。
- ✓ 財務・非財務施策の実行による株主資本コスト低減。
- ✓ 株式市場との対話や情報開示の充実などを通じた成長期待の醸成、ステークホルダー・エンゲージメントの向上。

目標ROE

10.0%以上^{*2}

株主資本コスト

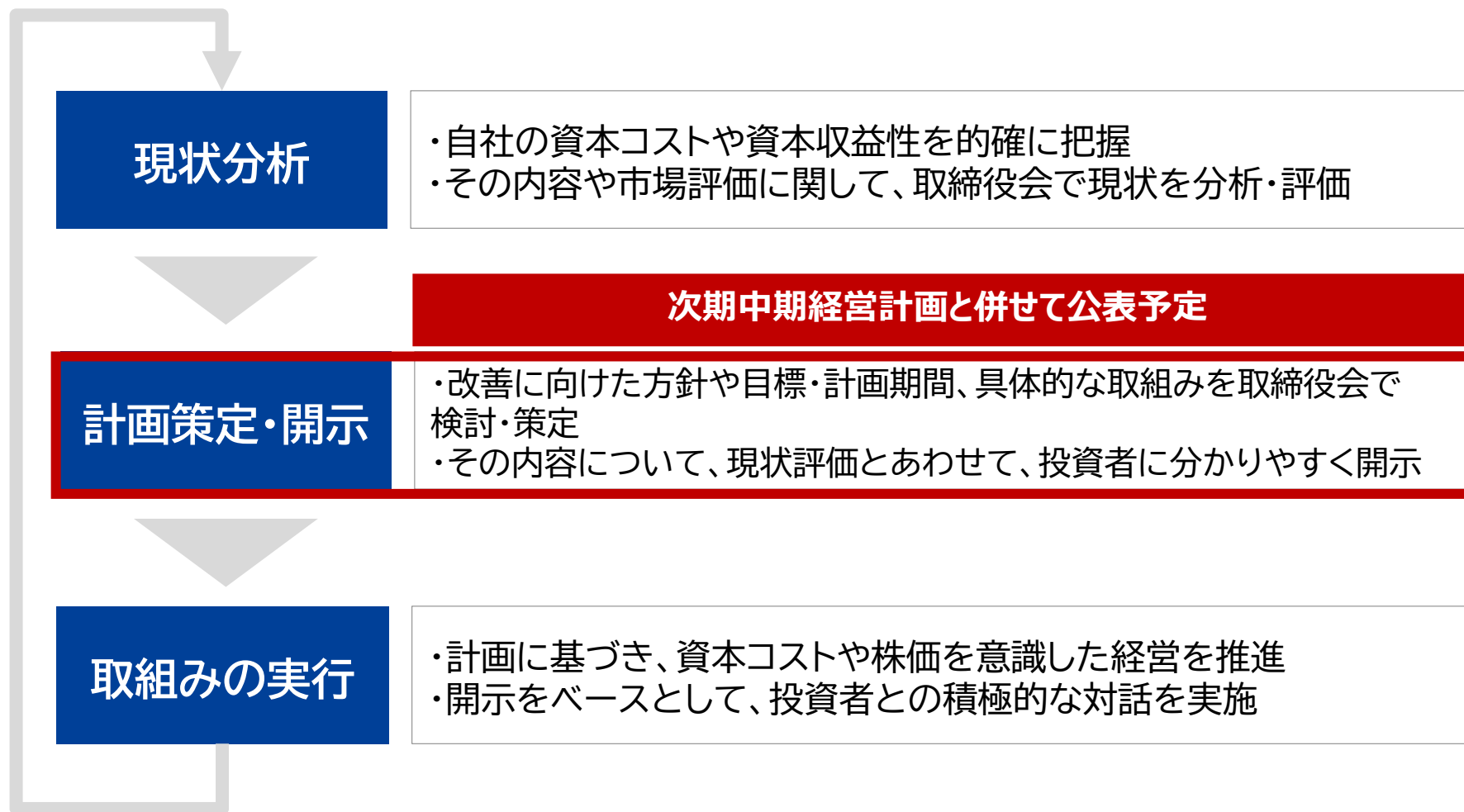
7.0~8.0%^{*1}

*1 CAPMに基づき当社算出。環境の変化により数値は変更となる可能性があります。

*2 中期経営計画(21/4~24/3)の最終年度目標数値です。

【今後の予定】 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

- 現状分析を踏まえた具体的な取組みについては、次期中期経営計画と併せて公表を予定。



2024年3月期第2四半期決算概要

2024年3月期業績予想

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(現状分析)

トピックス

パートナー連携による新領域事業の強化

- 萩原エレクトロニクスは、位置情報に基づく次世代駐車場の車載決済デモシステムを、米国スタートアップ企業の技術をベースに、車載側ソフトウェアとスマホアプリを国内大手Tier1と共同開発。ジャパンモビリティショー2023にて展示し好評であった。



【次世代駐車場 車載決済デモシステム】

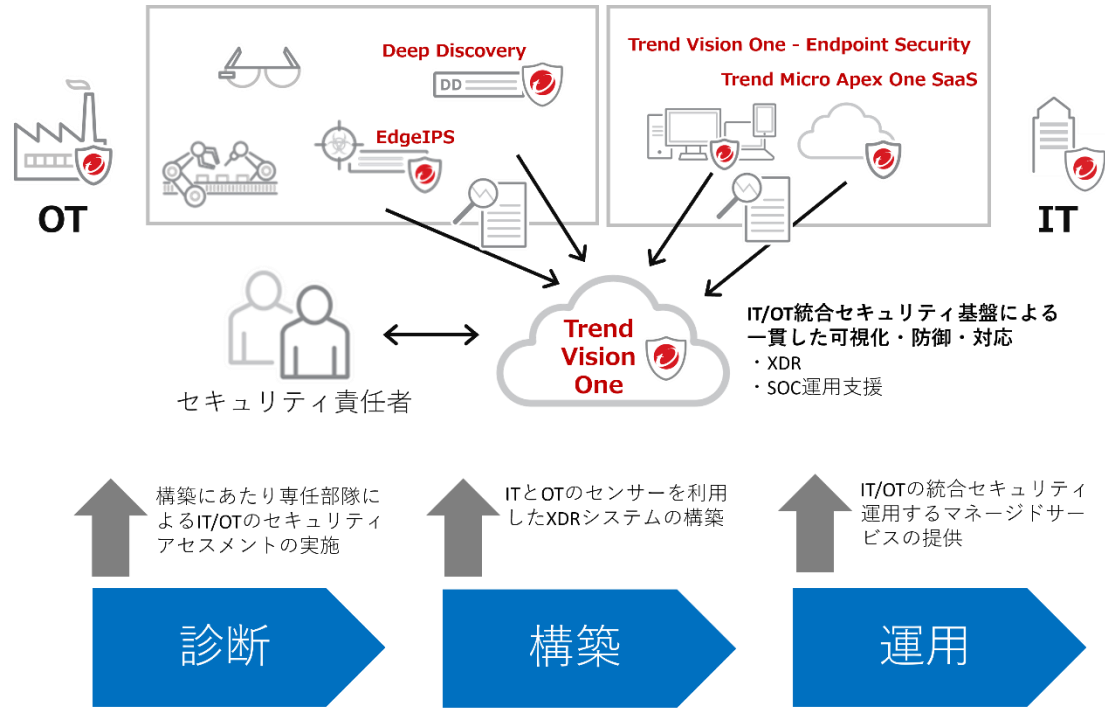
駐車場設備(入出庫ゲートや車止め装置など)がないスペースに対して、利用条件に関する属性(駐車可否や課金方法)をクラウド上で設定し、駐車場として利用できることが特徴。

車載機器側は正確な位置情報を得るアルゴリズムとクラウドと通信できるソフトウェアを搭載しており、任意の駐車スペースの属性に沿って課金を実施。

- 駐車設備を導入せず駐車場化が可能
- 曜日や時間、イベントの有無に応じた料金設計が手軽にでき、稼働率や収益向上を図ることが可能

パートナー連携による新領域事業の強化

■ 萩原テクノソリューションズは、IT領域とOT領域の融合が進む製造業界における統合サイバーセキュリティの推進に向けて、トレンドマイクロ社と戦略的パートナーシップを強化。技術系商社としての実績から得た知見とパートナー連携により、ソリューションの全国展開を図る。



* 2023年11月20日発表トレンドマイクロ社との共同プレス

萩原エレクトロニクスの香港子会社を設立

・事業基盤の強化とビジネスの拡大を目的に、当社子会社に新たに中国(香港)子会社を設立。既存の中国(上海)子会社とともに、主要顧客の生産拠点への安定的な商品供給に努め、グローバルサプライチェーンの安定化に寄与する。

【新会社の概要】

商号	萩原電気香港有限公司(予定) (英語表記:Hagiwara Electronics Hong Kong Limited(予定))
所在地	中華人民共和国香港特別行政区
決算期	12月末
大株主および持株比率	萩原エレクトロニクス株式会社100%
設立年月日	2023年12月(予定)
営業開始予定	2024年2月(予定)
事業内容	集積回路・半導体・一般電子部品の販売

第3回新株予約権は行使完了

- ・主要顧客である自動車業界のサプライチェーン安定化が急務であり、当社グループのグローバルな安定供給体制の構築を目的として、本資金調達を実行した。
- ・本新株予約権の権利行使は2023年10月6日にすべて完了し、資金調達額は34億64百万円となった。

【新株予約権の概要】

銘柄名	萩原電気ホールディングス株式会社 第3回新株予約権(行使価額修正条項付)
発行日	2023年4月24日
新株予約権個数(株式数)	11,000個(1,100,000株)
割当先および割当方法	SMBC日興証券に第三者割当
行使完了日	2023年10月6日 にすべて完了
発行済株式総数	10,118,000株(2023年10月6日時点)



創造と挑戦

先進エレクトロニクスで未来を創造する
ソリューションデザインカンパニー

引き続きご支援ご鞭撻を
よろしくお願い申し上げます

本資料のうち、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基き当社で判断したものであります。
予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。